

平成30年度農山漁村6次産業化対策事業に係る持続可能な循環資源活用総合対策事業  
(循環資源活用支援事業のうち地域資源活用展開支援事業)  
計画策定支援 および 全国的な推進・情報提供支援のうち地域循環資源の活用に関する情報発信

## 再生可能エネルギーの導入を通じた農山漁村の活性化推進事業

# マッチング活動 モデル地区の募集について

2018年7月

# マッチング活動 モデル地区の募集について



昨年度に引き続き、再生可能エネルギーの導入を通じた農山漁村の活性化推進事業として、再生可能エネルギーの導入・活用により農林漁業の活性化を検討したい自治体や農林漁業関係者の募集を行ないます。

本活動では、これから再生可能エネルギーの導入を検討したいと考えている方々や再生可能エネルギーの導入を検討中でエネルギーの活用方法を検討したい方々向けに、民間企業の知恵を借りて、再生可能エネルギー導入計画の策定を支援しております。

本活動にご参加をご希望の方は添付の『マッチング活動応募申請書2018.docx』にご記入の上、**7月27日(金)**までにenergy\_jmac@jmac.co.jp までメールにてご送付ください。

なお、今回は3箇所程度の支援を想定している為、応募多数の場合はご相談させて頂く場合があります。ご了承ください。

株式会社日本能率協会コンサルティング  
野田 真吾

## 1. 再生可能エネルギーの導入を通じた農山漁村の活性化推進事業について

## 2. 計画策定支援(マッチング事業)

- ①モデル地区の募集
- ②地域課題の明確化
- ③地域課題解決策の募集
- ④地域課題解決策の検討

参考:昨年度の参加地域

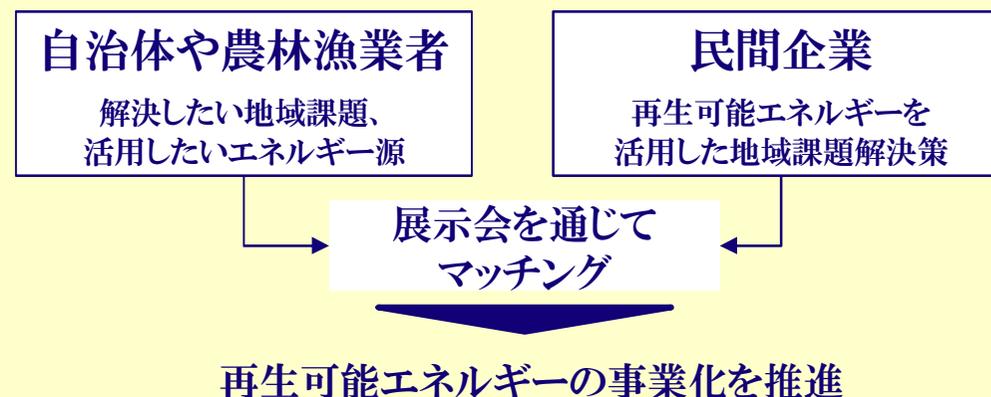
参考:その他参考情報

# 1. 本事業について

再生可能エネルギーの導入を通じた農山漁村の活性化推進事業は、主に以下の2つの活動を行っております。  
今回は計画策定支援(マッチング事業)についてご紹介致します。

## 活動その1. 計画策定支援(マッチング事業)

地域循環資源(再生可能エネルギーなど)の活用による地域活性化を目指す市町村や農林漁業者等について、モデルとして普及効果が見込める地区を選定し、専門家の助言により、課題整理、要件の明確化等を実施するとともに、課題解決に向け展示会を通じて解決策(ソリューション)を民間事業者に対し募集する。そして、応募事業者の提案内容について、専門家が精査し、優良な提案については市町村や農林漁業者にわかりやすい内容になるよう応募事業者にアドバイスした上で、マッチングを行う。



## 活動その2. 情報発信(理解醸成スタディーミーティング)

地域循環資源のマテリアル利用やエネルギー利用により農林漁業におけるコスト削減や収益増、地域活性化が図られた先進情報を提供し、地域循環資源の活用メリットの理解を醸成する。これにより、地域課題解決に地域循環資源を活用するための検討を具体的に開始する農林漁業関係者および自治体を増やす。

## 2. 計画策定支援(マッチング事業)

- 再生可能エネルギーにより農林漁業の活性化を検討したい自治体や農林漁業者を募集(3箇所程度)し、モデル地区における地域課題を明確にします。
- 解決したい地域課題や活用したいエネルギー源を展示会を通じて民間事業者に向けて発信します。
- その後、再生可能エネルギーを活用した地域課題の解決策を民間事業者から募集し、モデル地区とのマッチングを行い、一緒に解決策を実行する為の計画立案を行います。

### ①モデル地区の募集

6~7月

再生可能エネルギーの導入や利用により農林漁業の活性化を検討したい市町村や農林漁業者を募集します。(3箇所程度)

### ②地域課題の明確化

8~9月

モデル地区における地域課題や、活用できるエネルギー源を明確にします。

### ③地域課題解決策の募集

10月~11月

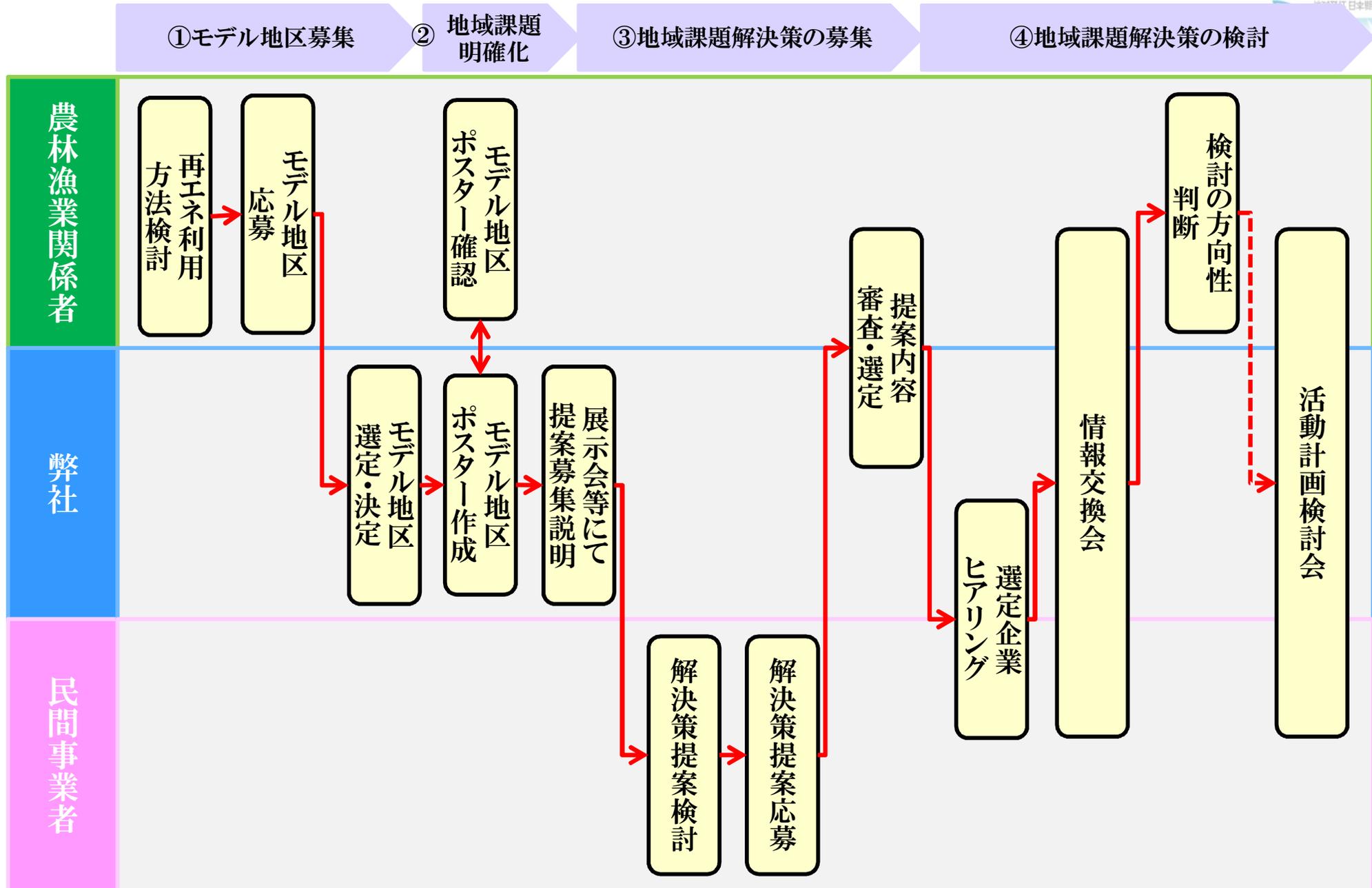
解決したい地域課題や活用したいエネルギー源を展示会を通じて民間事業者に向けて発信し、地域課題解決策を募集します。

### ④地域課題解決策の検討

12月~2月

民間事業者とモデル地区とのマッチングを行い、地域課題の解決策を実行する為の計画立案を一緒に行います。

# 参考：検討の流れ(イメージ)



# 検討したい地域課題解決策のイメージ(例)

売電収入による地域課題解決策だけでなく、下記のようなエネルギーを地産地消することで、農林漁業の課題解決・農山漁村の活性化につながる解決策を検討したいと考えております。

## 農業(施設栽培)

### 【解決したい地域課題】

- 光熱費の削減
- 農業残渣の処分

### 【エネルギー源】

農業残渣の活用



農業残渣を活用したバイオマスボイラーにより、ハウスへの熱供給を行うことで、光熱費を削減する。

## 畜産業

### 【解決したい地域課題】

- 付加価値向上
- 経費の削減

### 【エネルギー源】

牧場の空いている土地に太陽光発電



発電した電力を畜舎内の農機具や空調などに活用し、電気代を削減するとともに、生産物を環境にやさしいとアピールすることで、ブランドイメージを向上させる。

## 農業(露地栽培)

### 【解決したい地域課題】

- 運搬コストの削減
- 環境対策

### 【エネルギー源】

川の水の落差を活用した小水力発電



発電した電力を電気自動車に供給し、農作物の運搬コストを削減するとともに、環境にやさしい物流網を実現する。

## 漁業

### 【解決したい地域課題】

- 漁業の活性化
- 新たな雇用の創出

### 【エネルギー源】

洋上の恵まれた風況を利用した洋上風力発電

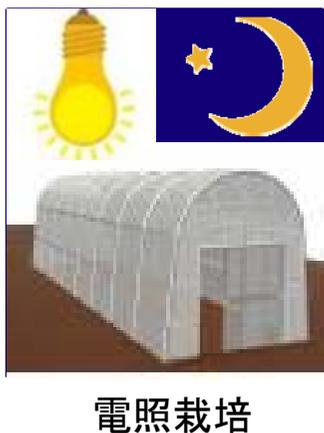


海岸の施設に電力を供給するだけでなく、風車基礎部へ人口漁礁を設置し、新たな漁場となったり、風力発電の保守点検に漁船を利用することで新たな雇創出する。

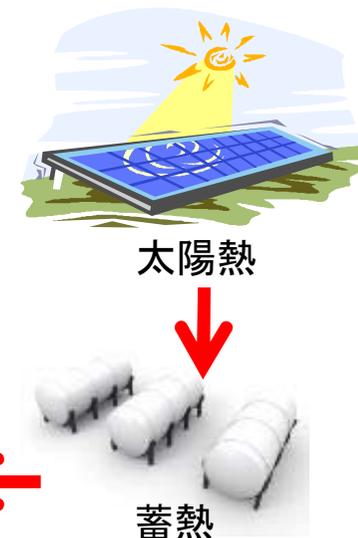
# 自家消費型再生可能エネルギー活用モデル(例)

以下のモデルはあくまでも例示であり、本活動では各地域の実状や多様な課題に即した再生可能エネルギー活用モデルを検討します。

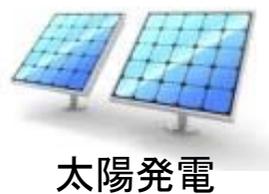
## 農業(施設栽培)



## 畜産業



## 農業(露地栽培)



## 漁業



# 活動の進め方①モデル地区の募集

モデル地区の対象として以下を想定しております。

農林漁業に関連のある組織体・産業であれば、モデル地区として検討させていただきますので、まずはご連絡ください。

## 【組織体】

### ◆自治体

- ・市、町、村

### ◆協同組合

- ・農業協同組合(JA)、農業協同組合連合会
- ・漁業協同組合(JF)、漁業生産組合、漁業協同組合連合会
- ・森林組合、生産森林組合、森林組合連合会  
など

### ◆法人

- ・農業法人
- ・土地改良区  
など

### ◆その他

- ・農林漁業関係者

## 【産業】

### ◆農業

- ・施設栽培(野菜、果物、花卉)
- ・露地栽培(米・麦・豆)
- ・露地栽培(野菜、果物)  
など

### ◆畜産業

- ・畜産農家(ブロイラー、鶏卵)
- ・畜産農家(牛、豚)  
など

### ◆漁業

- ・陸上養殖
- ・海面養殖
- ・漁業  
など

### ◆林業

- ・林業  
など

上記に限定している訳ではありませんので、まずはご関心がありましたらお問合せください。

# 活動の進め方②地域課題の明確化

モデル地区が決定しましたら、現地に訪問し、『地域で抱える課題の抽出』や『地域で活用できそうな再生可能エネルギー』について議論させて頂き、民間企業にどのように情報提供すれば良い提案をもらえそうかご相談させて頂きます。

再生可能エネルギーを活用した農山漁村活性化を実現するために、  
事業構想立案から事業計画策定まで5つのステップを踏む必要があります。

- 地域の特定
- 地域課題の抽出
- 課題解決策  
(ソリューション)  
の検討



- エネルギー種類選定
- 設備導入の検討
- 導入場所の検討

**事業コンセプト立案**

- 事業コンセプト・スキームの検討
- 地域ニーズ仮説の検証
- 実現課題の抽出

**事業体制構築**

- 事業実施体制の検討
- 資金調達方法の検討
- 展開可能性の検討

**事業実現性の検証**

- 事業課題、技術課題の抽出
- 地域ニーズの検証
- 資金調達方法の検討

**事業計画策定**

- 資金計画の立案
- 事業計画の立案

# 活動の進め方③地域課題解決策の募集

展示会などを通じて、明確にした地域課題をポスター化し紹介することで、我々だけで民間企業から地域課題の解決策を募集します。

	出展予定	日程	会場
福島	REIFふくしま2018	2018年11月7日(水)～8日(木)	ビッグパレットふくしま(郡山市)
滋賀	びわ湖環境ビジネスメッセ2018	2018年10月17日(水)～19日(金)	長浜バイオ大学ドーム(長浜市)
福岡	エコテクノ2018	2018年10月10日(水)～12日(金)	西日本総合展示場(北九州市)

## 【ポスターイメージ】

\*\*\*県のある団体A

地域の特徴

活用できるエネルギー源、解決したい地域課題

企業に提案して欲しいこと



## 【応募フォーマット】

貴社名	役職	TEL
ご所属	お名前	E-mail
対象地域	地域の経済課題	
検討対象とした地域の名称	対象地域が抱えている課題の内容	
ソリューションコンセプト	提案ソリューションを一言で表現すると	
ソリューション内容	課題解決イメージ	
ソリューション内容を絵や文字で表現してください。	ソリューションにより、地域の課題がどのように解決されるのかを記載してください。	

# 活動の進め方④地域課題解決策の検討

募集した地域課題解決策を評価し、選定された民間事業者とともに、今後の進め方を議論し、双方の同意が得られれば来年度以降の具体的な実行計画を立案します。

提案内容の評価、  
民間事業者の選定

対象としている地域や団体を再度訪問し、民間事業者が応募した解決策と一緒に評価し民間事業者を選定します。

提案内容の練り上げ

選抜された民間事業者とともに解決策を見直し、対象としている地域や団体の抱える課題の解決につながっているのか、実現性を再検討します。

進め方の検討

民間事業者と共に、対象としている地域や団体を訪問し、改めて提案内容について実現性について議論し、今後の進め方を検討します。

計画立案

対象としている地域や団体と提案した民間事業者の双方の同意が得られ、更に具体的に検討が進められそうであれば、来年度以降の実行計画を立案します。

**参考：昨年度の参加地域**

# 昨年度の参加地域と各地域の検討内容

対象地域	検討内容	企業に提案して頂きたい内容
岩手県のある自治体	牛糞バイオマス施設で発生する 余剰エネルギーの有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 冬に作付可能な施設園芸システム</li> <li>▶ 余剰電気・熱の活用方法</li> </ul>
福島県のある農業団体	耕作放棄地の有効活用、エネ ルギー創出による新たな収入源	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 投資額が少ないバイオガス発電プラント</li> <li>▶ 熱や液肥利用方法</li> </ul>
福井県のある自治体	食品加工残渣を活用したメタン ガス発電・熱利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 下水汚泥と魚のあらなどの食品加工残渣を活用したメタンガス発電システムおよび収集・運搬などの運営費用も含めた総費用</li> <li>▶ 自家消費を前提とした消化ガス発電における一般的な電気および熱の利用方法</li> <li>▶ メタンガス発電によって生じた消化液の活用方法</li> </ul>
静岡県のある自治体	地元農家が持続的に維持管理 可能な小水力発電運用モデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 発電の売電益や自家消費において、地元が魅力を感じるモデルの立案</li> <li>▶ 小水力発電を活用した地域資源の高付加価値化の立案</li> <li>▶ 地元が持続的に管理できる小水力発電運用モデルの立案</li> </ul>
和歌山県のある自治体	山椒農家における再エネ活用モ デル	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 山椒農家における再生可能エネルギーの活用モデル (例えば、再生可能エネルギーを活用した低コストの冷凍保存方法、電気がない場所での鳥獣害対策、収穫を容易にする機械など)</li> </ul>

# 昨年度作成ポスター

解決したい地域課題や活用したいエネルギー源を民間事業者に向けて発信し、地域課題解決策を募集する為に、ポスターを作成します。

## 農山漁村活性化に向けた再生可能エネルギーの活用策募集

福井県のある自治体  
食品加工残渣を活用したメタンガス発電・熱利用

岩手県のある自治体  
生畜バイオマス施設で発生する余剰エネルギーの有効活用

和歌山県のある自治体  
山椒農家における再生可能エネルギー活用モデル

福島県のある農業団体  
耕作放棄地の有効活用

静岡県のある自治体  
地元農家が持続的に維持管理可能な小水力発電運用モデル

静岡県のある自治体では、現在下記の検討を行っています。

企業の皆さまには、農林漁業関係者や自治体が発する課題に対して、再生可能エネルギーの有効活用策を考えて欲しい。

## 岩手県のある自治体

iwate

- 人口約6千人
- 農業を山々に囲まれ、標高が高い為、年平均気温は8.4度と低く、冬季には氷点下20度以下、積雪50cmになることもある。
- 農地として活用できる平地が少なく、農産物が専業である。
- 山豆や牛乳を原料とした製品が特産物である。
- 太陽光発電やバイオマス発電など再生可能エネルギーの導入を積極的に行なっている。

岩手県のある自治体では、現在下記の検討を行っています。

### 牛糞尿バイオガス施設で発生する余剰エネルギーの有効活用

設備の稼働力強化を図る手段として、乳牛の頭数を増やすことを検討しているが、頭数が増えることで農家の排出量も増えるため、適正な処理が必要である。

これまで乳牛の頭数は、増強して農地に還元していたが、しかし、農家が追加した場合に処理施設の処理能力不足、金銭的負担が大きい可能性がある。

そこで、バイオガスプラントによる農家の適正な処理を行い、堆肥及び液肥に分離し、有用な活用方法を検討している。

また、農産物加工で発生するバイオガスで発電を行い、農業・熱の自家利用の他、余剰エネルギーを最大活用できる体系を検討している。

既にバイオガス発電システムの事業計画策定や基本設計を行っており、今後詳細設計を行う予定である。

現在、生成した農業・熱の活用方法を検討しており、農産物・花卉・野菜などの畜糞堆肥や畜糞施設以外の活用方法を模索している。

なお、冬期間は積雪や、気温の低さから施設運営は難しいのが現状である。

企業の皆さま、下記について具体的な提案をいただけないでしょうか

- 各に付付可能な施設運営システム
- バイオガス施設、畜糞施設を一体的に設備し、畜糞施設の施設整備による設備更新の促進、畜糞の発生量の削減が図れるエネルギー・熱の適正な活用
- 施設更新費用については、地産地消に資する再生可能エネルギーの取組が可能な地域民衆の連携と取組を促進する取組
- 余剰電力・熱の活用方法
- 余剰分の削減や削減のための検討（特に夏場の農産物が多くなる）
- 政府の公共施設との連携や施設運営以外の活用方法

## 福島県のある農業団体

Fukushima

- 2011年の原発事故以来、5万人を超える避難が今でも続いている。
- 農産物販売価格も回復しつつあるが、事故前の水準までは戻っていない。また、観光も事故前水準には至っていない。
- 検討している場所には、緑豊かな自然環境に囲まれ、牧場や水田が広がっている。

福島県のある農業団体では、現在下記の検討を行っています。

### 耕作放棄地の有効活用

原発事故以降、荒れた耕作放棄地が増え、再生して農業を行うには、土地改良、新しい機具の創出などさまざまな課題がある。

### エネルギー創出による新たな収入源

畜糞尿や食品残渣とともに、耕作放棄地を活用した農産物を栽培するなどを行い、バイオガス発電に活用するなど、新しい農業経営における新たな収入を得ることで、新たな雇用を生み出す。

福島県特有の農地課題への解決策として、再生可能エネルギーの活用モデルを作り、福島県内に広げたい。

企業の皆さま、下記を考えてもらえないでしょうか

- 投資額が少ないバイオガス発電プラント
- 大規模なバイオガスプラントは存在しているが、自費5〜6億程度のプラントが自らの農地に導入しやすい。これまで、発電所設置コストが高額、設置地が選定できなかった。
- 越や液肥利用方法
- 周辺に採りやすさ、少し離れた所には適量がある。新たな採りやすさによる施設や熱の利用方法を検討して欲しい。また、施設設備は維持管理できないので、遠隔操作で稼働することも検討したい。

## 福井県のある自治体

Fukui

- 福井県の海沿いに位置し、海と山に囲まれ農業と観光（特産、ねぎ等）が盛んである。しかし、畜産業は少ない。
- 地力（土壌の性質に由来する農地の生産力）が低い。農産物の収穫が全国平均と比べて少ない。
- 年間を通して温暖な気候、年間の日照時間約1500時間、降水量約2000mm。
- 食品加工や林間整備の工場が立地している。

福井県のある自治体では、現在下記の検討を行っています。

### 食品加工残渣を活用したメタンガス発電・熱利用

魚のあらなど地域内の食品加工残渣は年約700トン以上発生しており、その多くは、地域外で焼却処理を行っており、その運搬・処理費用に年約500万円以上がかかっている。

また、公営の下水処理場において年約1500トンの脱水性汚泥が発生し、処分費用や脱水性汚泥等の処分費用メンテナンス費用に数千万円がかかっている。

そこで、下水汚泥と食品加工残渣を活用したメタンガス発電および熱利用を検討している。

静岡県のある自治体では、現在下記の検討を行っています。

### 地元農家が持続的に維持管理可能な小水力発電運用モデル

地域の課題化が進んでいるうえ、農業従事者の高齢化により、若い世代の継承不足が顕著となっている。

現在、農業用水を有効活用して、小水力発電の導入を検討しているが、自治体や農家からの協賛があるため、将来的な維持管理は地元農家や自治体間などに委ねざるを得ない。

しかし、高齢化・課題化で農業が停滞している中、農業家が持続的に維持管理するのが難しいと聞いている。

そこで、地域が小水力発電の運用を要しながら、持続的に日常的な維持管理ができるような運用モデルを検討したい。

また、小水力発電の活用を促進し、農業や観光の活性化を図り、地元が魅力を創出するモデルとしたい。

企業の皆さま、下記を考えてもらえないでしょうか

- 下水汚泥と魚のあらなどの食品加工残渣を活用したメタンガス発電システムおよび収集・運搬などの運営費用も含めた総費用
- 自家消費を前提とした廃棄物処理における一時的な電力および熱の利用方法
- メタンガス発電によって生じた有機物の活用方法（例：肥料や堆肥の活用など）

## 静岡県のある自治体

shizuoka

- 人口約20万人
- 夏は一年を通して温暖であり、地力は富士山と駿河湾に囲まれ変化に富んでいる。
- 村営地域の主な農産物はみかんである。みかんの原理と習わす「タノキ」についても生産・加工の取組に力を入れている。また、特産林産物として「しきみ」や「しいたけ」がある。
- また、水産物が盛んであり、産卵期で取れるタカアサギなどの高価値な魚類もある。

静岡県のある自治体では、現在下記の検討を行っています。

### 地元農家が持続的に維持管理可能な小水力発電運用モデル

地域の課題化が進んでいるうえ、農業従事者の高齢化により、若い世代の継承不足が顕著となっている。

現在、農業用水を有効活用して、小水力発電の導入を検討しているが、自治体や農家からの協賛があるため、将来的な維持管理は地元農家や自治体間などに委ねざるを得ない。

しかし、高齢化・課題化で農業が停滞している中、農業家が持続的に維持管理するのが難しいと聞いている。

そこで、地域が小水力発電の運用を要しながら、持続的に日常的な維持管理ができるような運用モデルを検討したい。

また、小水力発電の活用を促進し、農業や観光の活性化を図り、地元が魅力を創出するモデルとしたい。

企業の皆さま、下記を考えてもらえないでしょうか

- 発電の売電率や自家消費において、地元が魅力を創出するモデルの立案
- 小水力発電を活用した地域資源の付付価値化の立案
- 地元が持続的に管理できる小水力発電運用モデルの立案 など

## 和歌山県のある自治体

wakayama

- 人口約3万人
- 和歌山県のほぼ中央に位置し、町の中央部には川が流れ、川の上流は山椒、下流はカンナ栽培が盛んである。
- 日本の樹木百選、重要な文化的財に指定された熊野や山形村農家があるものの、耕作放棄地となっている農地も多い。
- 山椒の一大産地で、金室シェア日本一である。
- また、みかんも有名である。

和歌山県のある自治体では、現在下記の検討を行っています。

### 山椒農家における再生可能エネルギー活用モデル

山椒は収穫時期が長く、山椒は冷寒、乾燥山椒は冷寒保存して、必要時に取り出し加工している。その為、冷寒・冷寒保存における光熱費削減が求められている。

加工においては、収穫物から枝葉を取り除くのが大変であり、作業の効率化が求められている。また、計量装置にも含まれており、山椒の芽を育てることで枯れしてしまうことがある。

再生可能エネルギーの導入としては、中山間地であり、農業に山が囲まれ、小川が流れている。また、採りやすさの確保も難しい。

山椒農家の高齢化及び継承不足は非常に顕著で、農地が消滅の危機にある。後継者ができない要因は、収穫性の低さにある。現状を打開すべく、「山椒+再生可能エネルギー」で新たな農業モデルや新たな経営モデルを構築したい。

企業の皆さま、下記を考えてもらえないでしょうか

- 山椒農家における再生可能エネルギーの活用モデル
- 再生可能エネルギーを活用した低コストの冷寒保存方法
- 農家が採りやすさの確保を促進
- 収穫量を向上させる取組など

# 昨年度民間企業からの提案募集結果

昨年度は、各地域複数社からの提案があり、全体で15社21件のご応募でした。

対象地域	提案内容例
岩手県のある自治体	消化液の減容化対策、熱エネルギーの施設園芸への活用など
福島県のある農業団体	小規模なメタン発酵システム、資源作物のメタン発酵など
福井県のある自治体	中小規模普及型バイオガス発電システムなど
静岡県のある自治体	簡単操作の水力発電、農山漁村活性化ソリューションなど
和歌山県のある自治体	植物工場、水力発電事業化検討など

## その他参考情報

# 参考:もう一つの活動について(情報発信)

情報発信事業として、理解醸成スタディミーティング(全国10箇所の勉強会)を中心に、以下の4項目を実施する予定です。

1	先導的事例の調査 (2018年6月実施予定)	電気・熱の利用や未利用資源の活用等、総合的な地域循環資源利用の取組を先進的に行っている事例を調査し、農林漁業における導入・利用のメリットや導入する上でのポイントを整理する。(6地域程度)
2	理解醸成スタディミーティング (2018年8月～11月実施予定)	地域循環資源利用の理解醸成を促す為のスタディミーティングを行う(全国10箇所)。
3	地域課題検討ワークショップ (2019年1月実施予定)	理解醸成スタディミーティング参画自治体を対象に、地域課題整理のためのワークショップを行う(3箇所程度)。
4	活動報告会 (2019年3月実施予定)	本事業活動の報告会を実施し活動内容を公に広く共有する。

# 参考：昨年度の主な活動実績

## ◆展示会への出展

2017年10月11日～2017年11月20日(幕張・長浜・福岡)

<https://www.jmac.co.jp/column/exhibition201710.pdf>

## ◆再生可能エネルギーを活用した地域課題解決策の募集

2017年10月26日～2017年11月10日

[https://www.jmac.co.jp/column/industry/energy/problem\\_solving\\_jmac.html](https://www.jmac.co.jp/column/industry/energy/problem_solving_jmac.html)

## ◆農林漁業における再生可能エネルギーの活用方法に関する勉強会の開催

2017年11月13日～2018年2月9日(札幌・盛岡・郡山・長野・新潟・名古屋・京都・岡山・高松・福岡)

[https://www.jmac.co.jp/column/industry/energy/jmac\\_study\\_meeting.html](https://www.jmac.co.jp/column/industry/energy/jmac_study_meeting.html)

## ◆活動報告会の開催

2018年3月12日(東京)

[https://www.jmac.co.jp/column/industry/energy/report\\_jmac\\_20180312.html](https://www.jmac.co.jp/column/industry/energy/report_jmac_20180312.html)



活動状況につきましては、随時、下記URLにてご案内をさせていただきます。

[http://www.jmac.co.jp/column/industry/energy/energy\\_consulting20170831.html](http://www.jmac.co.jp/column/industry/energy/energy_consulting20170831.html)

## 本資料に関するお問い合わせ先

### 株式会社日本能率協会コンサルティング 農エネプロジェクト 野田、江原

〒105-0011

東京都港区芝公園3丁目1番22号 日本能率協会ビル7階

TEL:080-3258-0696 FAX:03-4531-4318

E-mail: energy\_jmac@jmac.co.jp

## エネルギー産業支援ホームページ

<http://www.jmac.co.jp/column/industry/energy/>

※本資料は以下の利用条件を十分ご確認の上ご利用ください。

1. 本資料に関する著作権、商標権、意匠権等を含む一切の知的財産権は、株式会社日本能率協会コンサルティングに帰属しています。
2. 株式会社日本能率協会コンサルティングの事前の書面による承諾を受けた場合をのぞき、本資料の一部又は全部を複製、転載、転用、翻案することは禁止されています。